

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

吹田市内の府立高校として最も長い歴史を持つ本校は、「伝統校」の誇りを持ち、地域に根差した信頼できる学校として生徒の持つ能力を最大限引き出すことを目標としている。とりわけ、以下の3点の力を身につけられるよう、生徒自身の「人間力」を育むため、教職員が一体となり、保護者、地域と連携して多様な取組みを進めていく。

- 1、自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力      2、確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力      3、心身ともに健康であり続ける力

## 2 中期的目標（H29年度～31年度）

## 1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力の育成

## (1) 基本的生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ

- ア 遅刻「0」の学校をめざし、学校をあげて「朝ガク」の充実、遅刻指導の徹底を図る。また、身だしなみ指導（頭髪・制服の正しい着用等）の徹底を図る。  
※平成31年度には遅刻総数を2000件以下とする。（H27：3,208件 H28：2,785件）
- イ 授業規律を徹底するとともに、自転車マナーの向上、情報モラルの育成を図る。  
※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する全ての項目の肯定率（H27：86.3% H28：89.9%）を平成31年度までに95%以上に引きあげる。

## (2) 学校生活における様々な活動を通じて、自己を正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ

- ア 行事を通じて育成される生徒の自己肯定感と自己有用感を高めるため、学校行事・HR活動の「質の向上」をめざす。また、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるよう、生徒・生徒会執行部の主体的な活動を積極的に支援する。  
※生徒向け学校教育自己診断における学校生活全般に関する項目の肯定率（H27：71.7% H28：74.0%）を平成31年度には85%以上とし、生徒向け学校教員自己診断における学校行事における自主性・積極性に関する肯定率（H27：82.8% H28：87.0%）をH29年度には90%以上とし、それを維持する。
- イ 部活動への加入を促す取組みを計画・実施するとともに、部活動の質の向上をめざす。さらに、学校見学会を活性化し、より多くの中学生の参加を図るとともに本校生徒の運営への参加を広げ、中学生との交流の機会を増やすことで「吹高生」としての自覚を高める。  
※部活動の加入率（H27：40.8% H28：40.6%）ならびに部活動に対する満足度（H27：92% H28：91%）を引きあげ、H31年度には加入率を55%以上、満足度を90%以上を維持にする。
- ウ 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、いじめを許さないことはもとより、互いを認め、尊重していくことのできる精神を育む。  
※生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率（H27：67.6% H28：72.9%）を毎年引きあげ、平成31年度には80%以上にする。

## (3) 生徒が主体的に進路目標を定め実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ。

- ア 「進路のてびき」を作成し、系統的な進路指導計画への改善を進め、1年生から3年生までの学習進行に応じた計画的進学講習のさらなる定着・発展に努める。※進学講習へのべ参加生徒数（H27：341名 H28：588名）を平成29年度には650人以上とする。
- イ 進路検討会議の定例化により、生徒の進路実現にむけた課題を早期に発見確認し、3年間の長期的展望にたった具体的支援策をチームで実施していく。  
※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する全ての項目の肯定率（H27：78.6% H28：82.5%）を毎年引きあげ、平成31年度には90%以上にする。

## 2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成

## (1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す

- ア 公開授業、研究授業の定期実施、授業アンケートの個人・科目・教科による系統のかつ綿密な分析等に基づき、シラバスおよび「吹高 CAN-DO リスト」の充実させるとともに、ICTの活用促進や「主体的・対話的で深い学び」の実現により、さらなる授業改善に組織的に取り組む。あわせて、これまで蓄積してきた「朝の学習会（朝ガク）」に関するノウハウを整理し、継続的に基礎学力の定着を図る。  
※生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する満足度（満点4.0／H27：3.1 H28：3.13）を平成31年度には3.2以上に引きあげ維持する。
- イ 個別自習室・マルチルーム等の活用促進を図り、生徒に自学自習の習慣を定着させ、進学実績のさらなる向上に努める。  
※2年次1月の基礎学力調査の結果（Cゾーン以上 H27：33.3% H28：22%）を段階的に引きあげ、平成31年度にはCゾーン以上の割合を40%以上に引きあげる。

## (2) 生徒の力を育成する新たな教育課程の構築、取組みの充実

- ア 学習指導要領の改定に基づき、グローバル化情報化等の社会の加速度的変化に対応できる「問題発見・解決能力」、「論理的思考力や探究力、コミュニケーション能力」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するための新たな教育課程の作成、および取組みを実施する。
- イ 平成23年度入学生から開設したこども未来専門コースについて、大学等との連携強化をはじめ近隣の幼稚園・保育園との協働によるデュアル・システムの導入など生徒の総合的な資質の向上に向け、円滑な運営推進に努める。  
※こども未来専門コースを選択した生徒たちにアンケートを実施し、コースで学ぶ内容等についての満足度（H27：100% H28：97.2%）を90%以上で維持する。
- ウ 平成25年度入学生から開設した「進学クラス」に対する習熟度別講座ならびに土曜講習等を「吹高 CAN-DO リスト」に沿って計画的にレベルアップする等、進学PTを中心として学力向上に向けた取組みを組織的に実施する。また、進学クラスでの成果を踏まえて、補習・講習の充実、質問会・宿題の量的見直し、個別自習室の利用促進などによって授業外の学習時間を増加させ、生徒全体の学力の向上を図る。  
※進学クラスの生徒が受験する外部模試の偏差値52.5以上の生徒数を、平成29年度には20人以上にし、それを維持する。  
※平成31年度には、関関同立・産近甲龍レベルの難関・人気大学への合格者60人以上をめざす。（H27：12名 H28：30名）

## 3 心身ともに健康であり続ける力の育成

- ア 保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、月1回の生徒情報会議（みかん会議）を充実させ、課題のある生徒の早期発見・対応を図る。加えて、生徒相談室の開放、スクールカウンセラーの活用を通じて、支援や指導が必要な生徒により適切な形での支援・指導を行う。これらの体制を十分に機能させることにより、生徒が自らの心身の状況を正しく理解し、学校生活に適應していく力を育成する。
- イ 清掃活動、救急講習、性教育講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、将来につづく健康管理・自己管理の意識を育成する。  
※生徒・保護者向け学校教育自己診断等の教育相談に関する項目の肯定率（H27：74.4% H28：77.3%）を毎年引きあげ、平成31年度には平均90%以上にする。同じく、生徒・保護者・教員の清掃に関する項目の肯定率を（H27：生徒32.5%、保護者67.9%、教員15.5% H28：生徒61.1%、保護者74.2%、教員27.1%）を毎年引き上げ、平成31年度には平均80%以上にする。

## 4 校内組織・教職員集団づくり、保護者ならびに地域との連携の強化

## (1) 運営委員会を中心としたミドルアップ・ダウンを確実に定着させ、学校運営の機動性をさらに高める。また、これまで以上に積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、学校経営計画の実現に向けた建設的な改善策や新たな取組みが、誰からも提案される学校風土を醸成する。

- ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画について運営委員会で議論を深め、目標を共有した組織的、一体的な取組みを確実に定着させる。
- イ 首席を中心に、学務グループ（教務部・進路部）、生徒グループ（生徒指導部・生徒会部・保健部）が、それぞれグループ内の連絡調整をより円滑に行う。
- ウ 校内研修（ミニ研修）の機会を増やし、常に学び続ける教師集団を形成する。

## (2) ICT等、校内ネットワークを活用し、校務の効率化に努める。

- ア 教職員が生徒と向き合う時間を確保するため、省略できる連絡事項は校内メールによる情報共有をさらに促進するとともに、会議資料の簡素化、職員会議の内容のさらなる充実を図る。

## (3) 地域や保護者との連携強化、広報活動の充実を図る。

- ア 体育祭・文化祭やクリーンキャンペーンなどの学校行事への保護者・地域住民のより積極的な参加を図り、生徒・教職員との交流の機会を拡大する。同時にPTA実行委員会等への教職員の参加を促し、状況報告、意見交換を行うなど双方向的な関係の深化に努める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向けの「授業規律は保たれているか」という設問に対する肯定率は61.4%であった。個々の教員がそれぞれの授業力の向上に努めるとともに、授業規律の確立に向けて生徒への働きかけを組織的に強化していく努力が今後とも必要である。</li> <li>今年度も76.3%の教員が授業アンケートを改善に役立てていると回答し、87.5%の教員が授業見学を改善にいかしたいと回答した。教員の授業力向上への意欲は高いと考える。一方、保護者は72.3%が「生徒は授業に満足している」と回答した。引き続き、改善への取り組み内容を工夫し、授業力向上につなげていく。</li> </ul> <p><b>【進路指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路希望に応じた教育課程の設定、計画的な進路HRや丁寧な情報提供などの取り組みについて、生徒は81.7%、保護者は82.9%の方が肯定的な回答をした。引き続き、3年間を見通した進路指導計画のもと、一人ひとりの生徒に向きあうきめ細かな進路指導を心がける。</li> </ul> <p><b>【生徒指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻、染髪、携帯電話に対する指導について、保護者からそれぞれ90%以上の肯定的な回答をいただいた。生徒からも遅刻防止(93.8%)や登校マナー向上(87.8%)への意識について高い肯定的回答があり、昨年度より向上している。今後も保護者の理解を得つつ、家庭と学校が協力してこれらの指導を粘り強く継続していくことが重要だと考える。</li> <li>体育祭、文化祭等の学校行事については、生徒の85.3%、保護者の90.5%から肯定的な回答をいただいた。今後も、生徒たちの自主性、積極性を伸ばせるよう学校行事の充実を組織的に進めていく。</li> <li>教育相談については、保護者から88.3%の肯定的回答いただいた。学校に悩みを相談できる場があると回答した生徒は65.9%となっている。引き続き、相談室通信等の発行、学校内外での教育相談・支援教育への認知を高める工夫をすることで、生徒一人ひとりがより多くの教職員に相談しやすい環境を整えていく。</li> </ul> <p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の学校運営に関する4つの質問の肯定率は73.2%となり、昨年度を大きく上回った。教職員が入れ替わる中で、運営委員会を中心として全教職員が日常的に議論を深める重要性、有効性についての共通認識を持てる取り組みを今後とも進めていく。</li> <li>職員会議の効率化については、教職員の肯定的回答が75.6%となり、職員会議の時間短縮が定着してきている。全教職員が協力して諸会議の時間を短縮し、ミニ研修時間の確保、生徒と向き合う時間の確保につなげていきたい。</li> </ul>	<p><b>【第1回(6月22日実施)】</b></p> <p>「H29年度学校経営計画について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻総数の計画段階の数値の記載方法については、件数で記載しているが、これでは生徒数の変動に応じて影響を受けるため、例えば100人に対してとするなど、生徒数の変動に影響されない表記にして、評価しやすくしていただきたい。</li> <li>家庭学習についての課題の量や働きかけは難しいが、基本に立ち返って勉強方法を教えることも大事だと思う。</li> <li>授業中のミニテストの実施では、提出して先生が採点するのではなく、時には生徒同士で授業中に採点することで反復学習の効果も期待できるのではないと思う。</li> <li>近年における進路実績等の上昇傾向については卒業生として喜んでいる。進学クラスについては、クラス数の増加が望ましく、そのために早い段階から意識を持たせる事が大事だと思う。2年生になる段階で成績順に進学クラスを編成するなど、切磋琢磨できる環境づくりで全体がより良い方向に進むよう、校内で慎重な検討をしていただきたい。</li> <li>新学習指導要領での英語重視の方向、中学の生徒数の大幅な減少をはじめ、この先は、かなり状況の変化が出てくると思われる。これらの大きな状況の変化を踏まえていただき、今後も取り組みを進めていただきたい。</li> </ul> <p><b>【第2回(11月20日実施)】</b></p> <p>「授業アンケート結果をふまえて」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身に関する項目と教員に対しての質問項目を一緒に分析して良いのかと思うので、1,2と3以下とを分けて数値を分析してはどうか。</li> </ul> <p>「取り組みの進捗状況について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導において、いわゆるフリーターを無くすためにもガイダンスを何度も実施していただいているようでありがたい。</li> <li>定期考査で極端に低い点数の生徒が減っていることの要因の一つに、朝ガクの反復学習があるようで、引き続き朝ガクで基礎・基本の徹底の定着を図って欲しい。</li> <li>頭髪指導について最近大阪府全体で話題になっているが、こちらでは、そのような事例の無いことの確認ができて良かった。</li> <li>主権者教育の一環で市選管から借受けた投票箱で生徒会選挙を実施したのは、社会人としての訓練になるので、良い取り組みだと思う。</li> </ul> <p><b>【第3回(2月28日)】</b></p> <p>「生徒指導について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導での遅刻数減少が少なかったが、学級数が前年度より減少していることを考慮して再検証してもいいと思う。併せてクラス別にバロメータがあれば指導に効果が期待されるかもしれない。</li> </ul> <p>「授業について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律ではベル着運動の取り組みを継承されたい。</li> <li>授業での取り組みでアクティブラーニングを意識した授業や能動的な学習への取り組みの継続をしてほしい。</li> </ul> <p>「進路指導について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路マップの活用・成果が出ると生徒の関心・意欲は向上する。</li> <li>進路マップについて、その目標や効果について生徒へもっとわかりやすくアピールすることで学力の向上につなげてほしい。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 自己を理解し、他者を認め、望ましい人間関係を構築する力の育成</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐむ</p> <p style="text-align: center;"><b>生徒指導部</b></p> <p style="text-align: center;"><b>教務部</b></p>	<p>ア、生徒の遅刻防止に対する意識の向上をめざす。そのために、細かい目標設定を行い、本校における遅刻指導について、教員のさらなる理解を深めていく。遅刻だけでなく、欠席状況にも注意しながら基本的な生活習慣を確立させる。</p> <p>イ、頭髪指導において、指導経緯を再確認するとともに、生徒へのアプローチを丁寧に行い、頭髪指導に関する生徒の理解を深め、自律を促す取り組みを展開する。</p> <p>ウ、生徒、保護者への連絡を密に行いながら、生徒の自律を促し、家庭と学校とが連携強化をはかるとともに、制服・ピアス等身だしなみ指導の徹底をめざす。特に新制服に関するルールの周知を丁寧に行い、スムーズな定着を図る。</p> <p>エ、1年生の自転車交通安全講習会や交通キャンペーン及びポスターなどを通し、継続的な交通マナーに関する指導を行い、生徒の交通マナーに関する意識を高める。それにより、自転車通学者を中心に交通安全意識の向上をめざす。</p> <p>オ、授業マナー（机上整備・準備の徹底、携帯電話電源 OFF 等）について、具体的取組を検討し、学年団とも連携のうえ、生徒への働きかけを強化する。</p> <p>カ、1年次に基礎的な情報モラルを育成するため、人権教育推進委員会・情報科・学年が連携し計画的に学習を実施する。</p>	<p>ア、継続的に調査している年間遅刻件数を 2500 件以下。 (H28 : 2785 件)</p> <p>イ、年間の頭髪帰宅指導件数を 30 件以下とする。(H28 : 22 件)</p> <p>ウ、年間の服装違反指導を 5 件以下。服装指導における預かり指導件数を 20 件以下。 (H28:0 件、15 件)</p> <p>エ、生徒向け学校教育自己診断における登下校マナーに関する項目の肯定率 90%以上 (H28 :87.4%)</p> <p>オ、生徒向け学校教育自己診断における授業規律に関する項目の肯定率 75%以上 (H28 : 71.2%)</p> <p>カ、学習後の理解、認識の向上に関するアンケートの肯定率90%以上 (H28:93.3%)</p>	<p>・今年度の遅刻総数は 2597 件で目標を達成することできなかった。年度途中から遅刻指導の書写の量を半分にしたことによって遅刻数が急増することはなかったため、将来的には遅刻指導がなくても遅刻が減っていくように順次移行していきたい。(△)</p> <p>・今年度の頭髪帰宅指導件数は 10 件。生徒の中に指導が浸透している。(◎)</p> <p>・服装違反指導 0 件、預かり指導は 27 件（スカート、スカート下ジャージ、パーカー）であった。一部の生徒を除き、指導が定着している。(△)</p> <p>・目標は達成していないが、昨年度の 87.4%を上回る 87.8%であった。今年度 2 学期中間考査後から実施している強化版登下校指導を継続し、ルール遵守、マナー向上に努める。(△)</p> <p>・年度当初に教員全体で授業規律の具体的内容を確認し、マナー向上に取り組んだ。その後も職員会議等で随時確認作業を行った。生徒へも年度当初に担任・教科担当を通じて授業規律に関する注意喚起を行い、その後も学年集会等で学年主任・学年教務を通じて随時確認作業を行った。しかしながら生徒の受け止めとしては、授業規律に関する肯定率が 61%に低下した。この結果を重く受け止め、授業規律に関する様々な取組を画策中である。教務部と学年が連携し、教員・生徒の双方に強く発信することで授業規律向上をめざす。(△)</p> <p>・1年次に「ネットトラブル防止」教育を外部講師の方をお願いしているが、本年度も誹謗中傷の事案があった。引き続き、啓発活動の必要がある。肯定率は 94% (◎)</p>
	<p>(2) 様々な活動を通じて、自己正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐむ</p> <p style="text-align: center;"><b>生徒会部</b></p>	<p>ア、生徒会執行部とそれ以外の生徒の連携を促し、生徒が自主的・積極的な活動を展開できるような支援を行うとともに、それを実現し得る校内体制をさらに強化する。</p> <p>イ、校外外に向けた部活動の情報提供を活性化し、部活動の質・量、両面での向上を支援する。</p> <p>ウ、いじめアンケートの実施による実態把握と、迅速な対応を行う。 ・3年間を見据えた人権 HR 計画の更なる充実と円滑な実施を行う。</p>	<p>ア、生徒向け学校教育自己診断における、学校行事への自主性・積極性に関する項目での肯定率 90%以上 (H28 : 87%)</p> <p>・教員向け学校教育自己診断における、学校行事の組織的な取組に関する項目での肯定率 60%以上 (H27 : 56.3%)</p> <p>イ、クラブ部員向け満足度調査における、部活動に対する肯定率 90%以上 (H28:91%)</p> <p>・生徒、保護者向け学校教育自己診断における部活動に対する肯定率80% (H28:77.5%)</p> <p>ウ、生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する項目の肯定率 75%以上 (H28 : 72.9%)</p>	<p>・「体育祭・文化祭に自主的・積極的に参加しているか」という設問に対する肯定的な回答は約 85%で、昨年度よりやや低めの数値となった。数値目標は達成できなかったが、生徒会執行部を中心として、生徒が主体となって行事運営を行えつつある。今後の発展に期待できる。(△)</p> <p>・「行事や部活動などの特別活動において、学年や学校全体での組織的に取り組む体制があるか」という設問に対する肯定率は約 81%で、昨年度から大きく改善し、目標の数値に到達した。今後も、分掌、学年、教科というそれぞれの枠組みにおいて、組織的な連携が図れるよう、継続的な取り組みが重要である。(◎)</p> <p>・約 75%の生徒が現在の部活動について肯定的に捉えている。調査の尺度を変更したことにより、昨年度よりも低い数値となったが、引き続き、質・量の両面での支援を充実させたい。(△)</p> <p>・肯定的な回答は、生徒・保護者ともに約 80%で、数値目標を達成している。部代表者会議を中心として、部活動の活性化について、生徒たちが主体的に考えられる支援を継続する必要がある。(○)</p> <p>・肯定率は 73%で、人権教育について生徒達の多くが前向きに受け止め、理解してくれていると考えられる。(△)</p> <p>・いじめアンケートに関しては本校独自のものを年 1 回、府教委からのものを年 2 回実施している。どちらも生徒からアンケートの記入や相談があった場合は担任を中心に丁寧に聞き取りを行い、必要に応じて管理職や学年、分掌等と連携をとっている。(○)</p>

	<p>(3) 生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ</p>	<p>ア、3年間を見通した「進路指導計画」や「模擬試験の年間計画」等を年度当初に生徒に提示し、進路実現に向けて生徒が主体的、計画的に取り組むように促す進路指導を行う。</p> <p>イ、各学年の実態に応じた「進路ガイダンス」を実施する。</p> <p>ウ、「吹田進路プログラム」の再検討を通じて「進路のてびき」の内容および使用方法について改訂を行う。</p> <p>エ、就職希望生徒（学校斡旋及び公務員）に対して、より細かな指導を行う</p> <p>オ、「進路検討会議」の定着を図り、進路実現に向けての課題を早期の掘り起こし、早期の計画的支援につなぐ。</p>	<p>ア、「進路指導計画」および「模擬試験の年間計画」等を6月までに生徒に提示</p> <p>イ、各学年進路HRにおいて、「進路のてびき」を使った進路学習を計画的に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路ガイダンス」は各学年の発達段階に留意しつつ実施し、3年は2学期までに3～4回開催</li> </ul> <p>ウ、「進路のてびき」の内容の充実に向けた改定をし、1学期中に配付する</p> <p>エ、就職希望生徒（学校斡旋）の卒業時の内定率100%（H28：100%）</p> <p>オ、「進路検討会議」を、1、2年生は年1回、3年生は1学期に1回、2学期に2回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断における進路指導に関する項目の肯定率85%以上（H28：82.5%）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生には4月段階のガイダンスで配布をした。1・2年に関しては、5月におこなった進路HRで提示をした。（○）</li> <li>・「進路のてびき」については、各学年が進路HRにて使用した。また、各学年の進路ガイダンスは予定通り実施できた。（○）</li> <li>・進路のてびきは1学期中に配布した。（○）</li> <li>・学校斡旋の就職希望者の内定率は100%（○）</li> <li>・進路検討会議は、予定していた分はすべて実施済みできめ細やかな指導をするための情報共有がはかれた。（○）</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断における、進路指導に関する項目の肯定率は81.7%であった。（△）</li> </ul>
<p>2 確かな知識や技能をもとに考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成</p>	<p>(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す</p>	<p>ア、進路指導部、学年、進学PTが連携し、進学講習、個別自習室、学習アプリケーション等の利用の推進について取組みを進め、自学自習する生徒への支援を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年主任を中心として、「朝ガク」を「基礎学力の定着」「学習環境の確立」の両面から、3年間見通したベースプランの策定を行う。</li> </ul> <p>イ・観点別学習状況を踏まえた年間計画（シラバス）充実を図る。「吹田進路プログラム」との関連性を整理したうえで、新「進学クラスCAN-DOリスト」の改訂を行い、内容の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回（7月、12月）の授業アンケート結果をもとに組織的な授業力向上策につなぐ。</li> </ul> <p>ウ、ICT活用授業、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内外での研究授業・研修などを通して各教科の授業力の向上を図る。</p>	<p>ア、2年次1月の基礎力診断テストの学習到達ゾーンCゾーン以上の割合を30%以上（H28:22%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学講習の受講者のべ650名以上（H28：588名）</li> <li>・「朝ガクベースプラン」の策定</li> </ul> <p>イ、新「進学クラスCAN-DOリスト」の更なる改訂</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート結果の平均3.15以上（H28:3.13）</li> </ul> <p>ウ、校内研究授業を年間8回以上の計画的実施（H28:9回）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月分の基礎力診断テストCゾーン以上の割合は20%であった。（△）</li> <li>・進学講習のべ受講者数は、705人であった。（◎）</li> <li>・今年度の1年生より、各教科が授業内容との関連付けをより意識し、放課後における再テストなどを導入した。今年度の結果を基に、次年度以降は全学年での朝ガクの充実をめざす。（○）</li> <li>・新「進学クラスCAN-DOリスト」は作成した。観点別評価を盛り込んだ新シラバスに関しては、各教科で評価のポイントを具体的に記述していたため、評価規準として大いに活用できることが分かった。今後も、「進学クラスCAN-DOリスト」と「シラバス」の特性をそれぞれ活かした利用法を探っていきたい。（○）</li> <li>・アンケート結果の2回の平均は3.15。個人での振り返りだけでなく、教科や科目間での協議を重ねて共有化することの徹底などが引続き必要である。（○）</li> <li>・校内研究授業は8回実施できた。研究授業の多くはICT機器を利用した授業やAL型授業が多かった。また、11月に授業見学週間を設けた。この見学週間の際に、各教科1回は授業の公開を事前に告知し、より意見交換がしやすいように環境を整えた。加えて、若手教員を中心に積極的に授業見学をしている姿を見ることができた。（○）</li> <li>・個別自習室の整備を行い、学習環境の構築に努めた。</li> <li>・一部の教科に関して、教科会を時間割に組み込んだ。教科内の横の連係が取りやすくなり、授業力の向上に一役買ったと考えられる。</li> </ul>

府立吹田高等学校

	<p>(2)生徒の力を育成する新たな教育課程の構築、取組みの充実</p>	<p>ア、次期学習指導要領の改定を見据え、吹田高校の生徒の力を育成する新たな教育課程の検討を開始する。</p>		<p>・一部の教科ではあるが教科会の時間を設けたので、教育課程の検討は比較的スムーズに行われた。こども未来専門コースの廃止に伴う教育課程の変更に関しても、既存のものを踏襲しつつ、各教科の意見をバランスよく反映させることができた。次年度以降もカリキュラム委員会と教科会を一定の頻度で行い、次期学習指導要領の改定を見据えたカリキュラムを検討する。</p>
		<p>イ、大学や地域機関との連携を更に深め、こども未来専門コースで展開される専門教科の授業の質を更に向上させる。 ウ、進学クラス生徒の進学に対するモチベーションを向上させ、3年間を見通した進路指導を充実させる。また、土曜日講習を含めての円滑な進学クラス運営を行う。 エ、異なる文化や習慣を尊重する精神を養い、国際的な視野を育てるため、国際交流の機会を利用する等、系統的な指導を行う。</p>	<p>イ、こども未来専門コースの授業に対する満足度90%以上を維持する (H28:97.2%) ウ、土曜日講習に対する満足度80%以上を維持する (H28:82.1%) ・関関同立・産近甲龍レベルの延べ合格者を40人以上 (H28:30人)</p>	<p>・専門コースの授業に関する満足度は、2年が70%、3年は100%であった。(△) ・土曜講習に対する満足度は3学年の平均で、81.6%であった。(○) 学年ごとに1コマの時間を変えたり、探究授業、校外体験授業を新たに組み込むなど、生徒の意欲を維持する取組が評価された。(◎) ・関関同立・産近甲龍レベルの延べ合格者は24人で目標には届いていない。(△)</p>
<p>3 心身ともに健康であり続ける力の育成</p>	<p>心身ともに健康であり続ける力を育てる</p>	<p>ア、多様な生徒情報を保健部主導による月1回の生徒情報会議(みかん会議)で共有し、課題のある生徒への早期対応に取り組む。</p> <p>・学校医・学校歯科医・学校薬剤師、養護教諭による健康相談を随時実施し、生徒や保護者が有する心身の健康についての悩みや相談にいち早く対応する。 ・スクールカウンセラーや関係機関と連携し、コミュニケーション力育成のための生徒及びPTA向けの心理学講座を実施する。</p> <p>イ、生徒保健委員によるミニ・クリーンキャンペーン等を実施し、校内美化意識を向上させる。 ・クリーンキャンペーン等の校内外清掃を実施し、地域全体の環境美化に対する生徒の意識を高める。 ・点検活動等を強化し、校内清掃を徹底させることで、校内美化の意識を向上させる。</p> <p>ウ、生徒と教職員による安全点検を各学期ごとに行い、安心・安全な学校環境を維持する。</p> <p>・関係各機関と連携し、防災教育や防災訓練、救急処置講習会等を計画的に実施し、地域的な防災・安全対策を推進する。 ・職員防災研修や生徒保健委員会主催の防災活動、災害の発生時間や場所に変化を持たせた避難訓練等を行う。 ・生徒の健康課題の解決に向けた各種講習会を学年ごとに計画的に実施する。</p>	<p>ア、生徒・保護者向け学校教育自己診断での教育相談に関する項目の肯定率が生徒保護者教員の平均85%以上(H28:平均84.1%)</p> <p>イ、ミニクリーンキャンペーン年間10回の実施(H28:10回予定) ・生徒保護者教員向け学校教育自己診断の清掃に関する項目の肯定率の平均が60%以上(H28:54.1%)</p> <p>ウ、安全点検の実施と事務室による対応結果の確実な共有</p> <p>・防災教育や各講習会後の生徒対象アンケートにおける理解・認識の向上に関する肯定率85%以上(H28:94.8%)</p>	<p>・生徒情報会議(みかん会議)を年間10回開催し、要配慮生徒の情報共有を継続して行った。会議で挙がってきた不登校の兆しのある生徒へは早期に支援を開始し、ケースによっては学校医や学校薬剤師、専門医や大阪府高等学校適応指導教室等の学校外の関係機関とも連携し、支援を継続した。児童虐待や希死念慮が疑われ早期に危機介入が必要な事象が発生した場合は直ちに関係者が集まり、学校医や学校薬剤師、専門医、校外の関係機関とも連携し生徒の生命・身体を守る対応を行った。発達障がいを含む障がいのある生徒については、支援教育コーディネーターや進路指導部、大阪府立支援学校と連携し、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざして継続した指導・支援を行った。 ・生徒・保護者向け学校教育自己診断での教育相談に関する項目の肯定率は、生徒が65.9%、保護者が98.8%、教員が100%であった。全ての平均は88.2%(○) ・学校医・学校歯科医による健康相談は年間15回実施し、延べ51名の生徒に対して心身の健康についての悩みや相談について専門的立場から指導助言をいただいた。また、養護教諭による健康相談も慢性疾患のある生徒や喫煙歴のある生徒に対して実施し、禁煙指導、服薬指導、健康管理等について指導した。 ・生徒保健委員による校内清掃啓発活動であるミニ・クリーンキャンペーンを年間10回実施した。学校教育自己診断で、「日頃校内美化に努めている」と回答した生徒は、60.9%、「校内の清掃指導が徹底されていると思う」と回答した教員は43.9%、「校内は清掃が行き届いている」と回答した保護者は70.2%で、全ての平均は、58.3%であった。(△) ・職員及び生徒による定期安全点検を7・12・2・3月の4回実施した。また、生徒保健委員による安全点検もミニクリーンキャンペーンと合わせ、年間10回実施した。事務室と連携し、学校で可能な対応、処置についてはすべて行った。来年度は日常の安全点検についてもさらなる啓発に努めたい。(○) ・生徒保健委員会の取り組みとして、吹田高校を中心として半径2km内の防災マップを作成、掲示した。 ・防災避難訓練(5・9月)、薬物乱用防止教室(6月)、救急処置講習会(7月)、栄養管理セミナー(7月)、献血セミナー(10月)、性教育講演会(11月)を実施した。薬物乱用防止教室の生徒事後アンケートでは</p>

保健部

## 府立吹田高等学校

				97.0%の生徒が「薬物は一度の使用でも『犯罪』『乱用』になるので絶対に使わない」と回答していた。また、栄養管理セミナーの事後アンケートでは、受講した生徒・保護者全員が「大変よかった」「よかった」との回答であった。献血セミナーの事後アンケートでは受講した生徒の98.9%が「よく理解できた」「理解できた」と回答していた。(◎)
4 校内組織・教職員集団づくり、連携強化	<p>(1) 校内組織の活性化、教師集団づくり</p> <p>(2) 校務の効率化</p> <p>(3) 地域・保護者との連携強化、広報活動の充実</p>	<p>ア、「基本的生活習慣・規範意識の確立」「学力の向上」「授業力向上」「新教育課程の編制」を学校全体の大きな取組み課題ととらえ、分掌を超えての連携ならびに役割分担の明確化を行い、運営委員会での方針決定のもと、機能的に課題を解決する。</p> <p>イ、各首席が学務グループ長、生徒グループ長として、上記横断的課題を解決するため、各分掌間の連絡調整を綿密に行う。</p> <p>ウ、職員会議内のミニ研修を活用し、「知りたい」「知っていてほしい」課題についてのタイムリーな研修とする。そのことで常に学び続ける教師集団を形成する。</p> <p>ア、校内メール、共有フォルダ、スクリーン映写資料を活用して報告事項の精査、資料の簡素化、会議に要する時間のさらなる短縮をめざす。</p> <p>ア、学校行事・クリーンキャンペーン・登下校指導の機会を利用し、地域住民や・PTA等の保護者との連携を強化する。</p> <p>イ、広報PTが中心となり、より効果的な広報活動についてトータルに検討し実施する。</p>	<p>ウ、ミニ研修の実施3回以上 (H28:3回)</p> <p>ア、教員向け学校教育自己診断の職員会議の時間短縮に関する項目の肯定率75%以上 (H28:70.2%)</p> <p>イ、保護者向け学校教育自己診断の広報に関する項目の肯定率75%以上 (H28:74.3%)</p>	<p>・最新の救命救急法、てんかん発作について、要配慮生徒情報、会計事務についてというテーマで4回実施。今後もタイムリーな研修を企画する (◎)</p> <p>・校内メール、スクリーン映写などによって会議にかかる時間の短縮がはかられている。肯定率は75.6% (○)</p> <p>・広報に関する肯定率は68.8%。広報PTを中心に、学校説明会、中学校訪問、HPの更新、メルマガ配信等をトータルに実施したが、機器の不良が原因でメルマガ配信が一時期滞った。HPの更新には一層のスピード感が求められている。(△)</p>